

映画の小箱

ナチスの占領下に置かれたポーランドのある町。自由を求めるユダヤ人はラジオニュースをきっかけに、生きる希望と力を得ていく。

金丸弘美=文
text by Hiromi Kanamaru

『聖なる嘘つき その名はジェイコブ』

ラジオがもたらした 夢と希望と勇気

希望は夢に繋がり、夢は現実に変わる。人が生きる上で、どれほどに希望というものが大切なものなのか、語らいあう物語が、いかに生きる力と糧になるのかを教えてくれる。

限られた空間の、ぎりぎりの極限のなかで追い詰められ、明日も、未来も見えなくなつた人たちにもたらされた一つの光。それは次第に大きくなり、奇跡を呼ぶ力となる。

喜怒哀楽を生み、勇気を与え、力を創る。そしてユーモアさえもつむぎだす。人々の表情、機微、笑顔、怒り、恐怖、その一瞬一瞬に、魂を揺さぶられるに違いない。

一九四四年、ポーランドのある町。そこはナチスの占領下であり、ユダヤ人の住む町ごとが閉鎖され、ゲットーとなつている。住人は自由も仕事も奪われ、強制労働に従事させられ、やがて収容所に送られるのである。

パン屋のジェイコブ（ロビン・ウィリアムス）は、外界との情報が閉ざされている中で、風で飛んできた新聞をつかまえようと追ううちに、塀のそばまで来てしまい、管制塔の銃口にさらされ、夜間外出禁止令に触れたとして、ナチスの司令部に出頭を命じられる。

司令部に行ったとき、偶然ラジオを聴いた。町から四百メートル先でソ連とドイツが交戦しているというのである。ジェイコブは嬉しくなつた。援軍が近くにいたのだ。

彼と会った将校は特別なことを聞くわけでもなく、しかし意地悪なことに、夜間外出禁止の午後八時の時報とともに彼を帰した。これは、外でいつ射殺されてもおかしくないことを意味していた。

外に飛び出し、うろたえるジェイコブ。ところがそこに声をかけるものがいた。収容所送りの列車から脱出してきた少女リーナ（ハナナ・テイラー・ゴードン）だった。リーナ

は彼を導き塀

の隙間を見つ

け、ゲットー

に無事戻つ

た。ジェイコ

ブはリーナを

屋根裏にかく

まい一緒に住

むことにする。

彼の妻は収容

所送りで二度

と帰ることな

く、またパン

も焼くことな

く、一人暮らしをしていたのである。

翌日、ジェイコブはラジオのニュースを、

親しい仲間に伝えるに行った。床屋のコワル

スキー（ボブ・バラバン）は、仕事も未来もな

いために自殺しようとしていたが、ジェイコ

ブの言葉に思いとどまる。

とくに喜んだのはボクサーのミーシャ（リ

ーブ・シュライバー）で、小躍りした。

このラジオの噂は、たちまちゲットーに広

がる。そしてミーシャはジェイコブがラジオ

を持つているのだと信じてしまい、ジェイコ

ブがいくら否定しようにも耳をかさない。そ

して次のニュースを執拗にねだるようになる。

やがて噂は独り歩きし、大きな事件に発展

する。本当にラジオを隠していた者は、ナチス

に見つかれば殺されると、ラジオを壊してし

まった。ある者はもうすぐ解放されると信じ、

ゲットーから出ていく列車に駆け寄り、ニュ

ースを伝えようとして射殺されてしまった。

ジェイコブは良心にさいなまれる。

そんなときリーナが病気になる。ジェイ

コブは、医者キルシュバウム（アーミン・ミ



ローヤルゼリー 進化論

高品質ローヤルゼリー

+

アガリクス茸

JRJの高品質ローヤルゼリーに、注目されるアガリクス茸を配合。それが進化したローヤルゼリー、JRJスプリウムローヤルゼリーAGです。

若い働き蜂の咽頭線から分泌されるローヤルゼリー。女王蜂はこのローヤルゼリーだけを食べ、体長は働き蜂の2倍から3倍、寿命は働き蜂の1か月に比べ、3年から5年と長生きします。そして、生涯、毎日2,000個から3,000個の卵を産み続けます。この生命力の源がローヤルゼリーです。

JRJスプリウムローヤルゼリーAGは、最高品質のローヤルゼリーに「奇跡のキノコ」として世界的に注目されるアガリクス茸を配合。より積極的に健康を考える皆様にお応えしています。ぜひ毎日の栄養補給、健康維持にお役立てください。



JRJスプリウムローヤルゼリーAG

調製ローヤルゼリー

60粒 ¥35,000 / 150粒 ¥70,000 (消費税別)

健康しっかり。



ジェーアルジェー株式会社

本社:東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル17階
TEL.03-3345-2888 〒163-0517



ユラー・スタール)に、リーナのことを打ち明け、病気をみてもらうことにする。しかしキルシュバウムはジェイコブに、薬が一つもないことを話し、ジェイコブにラジオのニュースの嘘を続けること、そしてそれしか、みんなの生きる希望がないこと、ラジオの噂が流れてから、自殺者が確実に減ったことを告げるのである。キルシュバウムは、リーナに、

希望という処方箋を出す。

ジェイコブはニュースを創作し始める。そして、そのことは住民に希望を与え、抵抗組織さえ生み出すことになる。臆病な、ただのパン職人だったジェイコブは、組織の代表に選ばれ、みんなの先頭に立つことになる。だが、ラジオがあるという噂は、ナチスにまで伝わり始めていた。

一つのラジオニュースをきっかけに、人々に伝播することによって生まれる、このドラマの起伏は圧巻。とくに見事なのは、ジェイコブが少女リーナに「嘘つき! ラジオなんかないじゃないの」といわれ、彼女を椅子に座らせ、「絶対に振り向いちゃだめだよ」と言い聞かせ、かつてのパン屋の厨房で、ラジオの実況中継を演じてみせる場面である。

そして「音楽はないの」と尋ねられ、困惑したジェイコブが、ホコリを被った蓄音機を取り出し、リーナと踊り出すところだ。

ここには人の心の怖さ、噂の恐ろしさを、それにもまして、思いが一つの大きな力となるすこさを、人の希望とヒューマンを、大きくうたいあげ、魅了してやまない。

『聖なる嘘つき その名はジェイコブ』JAKOB THE LIAR

(1999年 ソニー・ピクチャーズエンタテインメント配給 アメリカ映画)

監督=ピーター・カソヴィッツ

出演=ロビン・ウィリアムス/アラン・アーキン/ボブ・バラバン/ハンナ・テイラー・ゴードン/マイケル・ジュター/アミン・ミュラー・スタール/リープ・シュライバー